

私の中のヒーロー

前回書いた「『クモの巣』と『班長』」の文章に反響がありました。私がああ文章で伝えたかったのは、「班長同士の横のつながり」でした。しかし、読者が真っ先にかけてくださった言葉は、それについてではなく、クモの巣に興味があった私の中学時代についてでした。「クモなんて気もち悪くない？ 変わった中学生でしたね。」
「どうして、よりによってクモを調べたのですか？」

私としては、最も言いたいことを引つ張り出すためにクモの話題を利用しただけでしたが、読んでくださった方の中には、クモを調べた私に興味が生まれたようです。喜んでいいのかがっかりしているのか……。まあ、読んでくださったことはうれしいことですけどね。
一応国語の教師ですので、芥川龍之介の『蜘蛛（くも）の糸』を読んで興味をもったと言えばかつこいいかもしれませんが、実は全く違います。中学時代の私は、夕方になるとせつせと巣をつくるクモを見ていて、どんどん疑問がわいてきたのです。

どうしてクモは夕方に巣をつくるのだろうか。どのようにして巣をつくるのだろうか。どんな場所に巣をつくるのだろうか。端において、獲物がかかってから姿を出せばよいのに、どうして巣の真ん中にじつとしているのだろうか。巣を壊したら、またすぐに作り始めるのだろうか。ミンチ肉を巣に引つ掛けたら、クモはどうするのだろうか。紙切れをひっかけたら……。中学生の私にはこんな疑問がぐるぐると頭を駆け巡ったのです。

自分でいうのも何ですが、若い時の私は結構いろんなことに疑問を持っていましたね。今では、野菜を作っていて、キャベツや白菜に青虫がつくと、「寒冷紗（野菜を覆うカバーです）をかけているのに、チヨウはどうやって卵を産みつけているんだろう」と違った形で疑問をもっています。

「クモの糸に人はぶら下がれるのか」「イチローの球の軌道を再現するためには」「日本語を話す人は将来いなくなるのか」「タブレット端末を取り入れた授業が子どもたちに与える影響は何か」「日中の眠気の原因と対策方法は」……。これらはある高校の生徒たちが追究していた研究テーマです。中には、一見するとばかばかしく思えるようなものもありますが、高校生たちは真剣にこのような自分独自のテーマを設定して突き止めようとしています。

これからの社会で求められるのは、教えられたことを覚えておく力、やらなければならぬことをこなす力ではありません。自分が不思議に思うことや突き止めてみたいことをしっかりもち、それを追究しようとする姿勢と力なのです。

中学時代にクモを研究して、クモに対する私の認識が変わりました。その姿や生態からして、人間はクモを嫌がりますが、パイダーマンがヒーローになって当然だと思うくらい優れた力をもっています。私の中でクモはヒーローなのです。

（十月四日記）